

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「姫太郎」

テーマ：「男なのに世界一綺麗な美少女」

キャラクター

30

ストーリー

35

テーマ(設定)

40

文章力

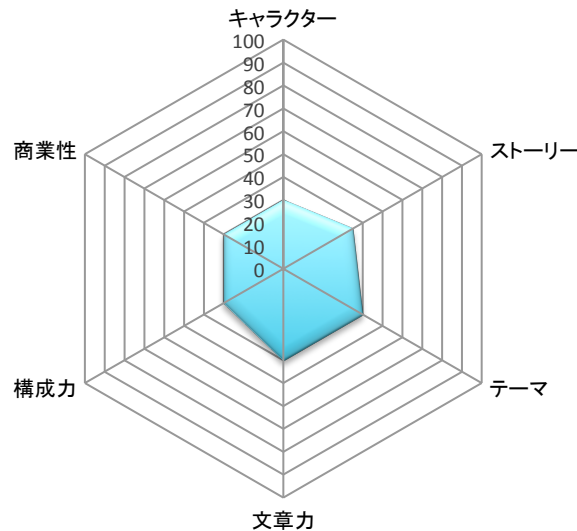
40

構成力

30

商業性

30



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がりに欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

叙述トリック(主人公が動物などに人間に見せかけるなど)はなるべく使わない。この場合ほとんどの読者は主人公が人間であると思って物語を読み進めている。しかし実際は猫であり、その上猫であることはギリギリまで読者に押し隠されているから、読者にとってみればそのギリギリまでよく分からない小説意外の何物でもなく、下手すれば最後まで読んでくれない。
・序盤で提示される主人公に関する情報が少な過ぎるため、読者が物語を想像しながら読むことが出来ない文章になってしまっている。特に年齢に関する情報が無いから意味不明な状態になっている。例え、文中「魅惑のボディをもっている」→読者「美女っぽい見た目の男性ってこと? ってことは年齢は20代前半くらい?」→結局分からない(おニヤン子の平均が19歳くらい?) 文中「金ちゃん小学三年生は教室中のプリンを回収して俺に与える」→読者「え、主人公はその金ちゃんの間接生? てことは主人公小学三年生なの? 20代くらいじゃなかったの? つか金ちゃんって誰!」→結局分からない 更にその後ホームレスになるという描写も、十数年の時間経過があってホームレスになったのか、まだ子どもの状態でホームレスになっているのか、説明がないため想像ができない。このことが災いし、ものすごくつまらない小説の見た目になってしまっている。(ただ年齢を書く人間でないことが分かってしまうので、このミスは回避が物凄く難しい。その意味でも叙述トリックは使わない方が良かった)
・主人公の心情説明が9割を占め、現存のような場所や何をやっているのかという状況説明がない。ただ完全に無いわけではなく、「路地裏で無縁に寝転がる俺の目の前は、小さなネズミがうろついていた」のような状況説明がたまに挟まれるが、読者の想像力を湧か立たせるにはさすがに情報量が少な過ぎる。死にかけているシーンが路地裏での出来事であるならせめてそこは路地裏くらいの情報は冒頭で敬しかった。

合計加点ポイント 0

総得点: 205 / 600

B方式総合得点: 7004 点